

熊本県立第一高等学校 平成30年度学校評価表

1 学校教育目標						
<p>「くまもとの教職員像」、「県立中学校・高等学校における教育指導の重点」、「人権教育取組の方向」、「特別支援教育取組の方向」、「県体育保健課取組の方向」及び本校の「白梅の精神」等に則り、「健全な心身の育成」、「学力の充実」、「地域との連携」を柱に、生徒一人一人の個性を伸ばしながら、心身ともに健全で叡智に富み、凜とした気品のある心豊かな人材の育成をめざす。</p> <p>そのために、全職員が教育者としての基本的資質（①教育的愛情と人権感覚、②使命感と向上心、③組織の一員としての自覚）や専門性（①生徒理解と豊かな心の育成、②学習の実践的指導力、③保護者・地域住民との連携）の向上に努めるとともに、互いの連携と協力のもと、創意工夫を生かした教育の実践に努める。</p>						
2 本年度の重点目標						
<p>(1) 目的と目標の明確化による共通理解に基づいた協働体制の強化 (2) 教職員及び校務分掌間の一層の連携による効果的かつ効率的運営 (3) 進路指導体制の強化と指導力の向上 (4) 平日及び土曜日授業の充実と平日放課後の有効活用 (5) 幅広い経験に基づいた自己変革力の育成を図る指導</p>						
3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校経営の方向性の具体化	学校改革の更なる推進を目標として取組と検証提言と各部・学年教科等による実行	取組の検証と課題の整理を行うことにより、多忙感軽減の具体的なプランを実行	・昨年度の取組の検証結果を踏まえ、各部・学年・教科等でアクションプランを作成し、実行に移す。特に、担任の業務量軽減について重点を置く	A	・担任の業務を副担任ができる限り補うシステム作りが進んできた。次年度は行事の精選を実行し、多忙感の解消に努めたい。
	組織の連携と全職員での共通理解	学校教育目標実現に向けた組織の連携の強化	運営委員会を中心とした各部の連携の強化	・各部・各委員会での入念な打合せと関係部との事前協議 ・運営委員会、職員会議による協議と情報共有 ・年度末反省、学校評価等による検証	B	・各部・各委員会での取組は運営委員会には反映されているが、全職員には浸透していない。 ・年度末反省は十分に行っていない。
			業務の効率化と統一化の強化	・「職員必携」の随時更新・活用による共通理解と業務の効率化	B	・何かあれば職員必携を見るところという習慣が身に付いていない。
	土曜日授業の充実と平日放課後の有効活用	モジュール学習の有効活用に関する共通理解の構築を図り、実動に移す	学習方向上委員会により効果的な学習内容を検討し、学年全体で取り組む	・「職員必携」の随時更新・活用による共通理解と業務の効率化	A	・モジュール学習も軌道に乗ってきたので更なる深化を求めて職員の意識統一を図っていき
	教育環境の整備	必要な設備の充実と安全管理	施設・設備の充実と安全点検、環	マスコミやホームページ等の積極的活用	・マスコミ等を活用した学校行事等の情報の積極的な発信 ・ホームページの随時更新を実施し新鮮な情報の発信 ・「学校安心メール」の保護者登録を増やし、有効に活用する	B
教育環境の整備						

			境 ISO の取組	底		いの電気や水道を使っているか認識させたい。
危機管理意識の向上	学校運営協議会の合理的な運営	地域や外部委員との協力体制の強化		・生徒や職員に対する防災等に関する情報提供の充実と防災マニュアルの実働	A	目標以上の取組ができた。特に防災委員の活躍が大きい。課題はより現実的な訓練の実施。
	緊急事態発生時における適切な対応	事故発生を未然に防ぎ、事故対応を想定した準備		・危機管理マニュアルの利用徹底と職員研修会による日常の意識向上	A	・防災に関する意識はかなり高まってきた。ただ、日常的な危機管理については今一度職員の研修が必要である。
学力向上	授業の充実	アクティブラーニング型授業の実践	全職員による最低2回参観の実施	・1学期と2学期にそれぞれ約1か月の公開授業の期間を設けて実施し、評価シートを導入。	B	・同教科の授業参観は活発になったが、他教科の授業参観がより活発になるように働きかける。
		アクティブラーニング型授業をテーマとした授業研究及び研究会の実施		・本校におけるアクティブラーニング型授業の定義の確認 ・アクティブラーニング型授業に関する職員研修の実施 ・全授業者を対象とした最低1回以上のアクティブラーニング型授業実践の取組 ・アクティブラーニング型授業に関する教科会の実施 ・授業評価アンケートの実施と活用（各学年：年2回）	B	・新指導要領が求める授業改善について、職員研修で共通理解を図ることができたと考えられる。アクティブラーニング型授業の実践は次年度以降も継続して取り組みたい。 ・授業評価アンケートの結果を授業担当者に報告し、これまでの授業の振り返りに活用してもらったことができた。
		3年間を見通した学習指導計画の作成		・シラバスの精度の向上	B	・教科・科目内、担当者間では十分協議されていると思われる。一括とりまとめについては、働き方改革の一環として整理したい。
家庭学習時間の増加	各学年家庭学習時間の増加	平日2時間の家庭学習時間の確保		・学習実態調査等で生徒の取り組み状況を把握し、授業の工夫改善等を教科会で検討。 ・調査の分析を通して、担任との二者面談や教科担当者面談の実施。	B	・家庭学習時間の目立った増加は見られなかったが、予習・復習のあり方や週末等の課題については教科・科目で概ね検討が進んだ。
キャリア	夢実現にや燃ら進路を自らを育成	進路情報の共有化と発信	進路環境や生徒の現状に関する情報の発信と共有化推進	・3年進路検討会の実施、1～2学年学力分析会の強化 ・「進路ニュース」（年4回）の発行 ・進路委員を用いたオープンキャンパス情報・キャリアガイダンス情報の提供 ・高大接続改革に関する情報発信	A	・1・2年の進路検討会を計画的に実施することができた。3年第2回検討会は、全職員が参加できるように、実施日を変更したい。 ・進路委員は、情報提供活動をきちんと遂行してくれた。 ・高大接続改革の情報は、教科連絡等も含めて実施できたと思う。
	教科指導力及び進路指導力	各教科との連携強化に		・校内模試作成等を通じた問題作成能力の向上		・校内模試は必要なものだが、実施の意

ア 教 育 進 路 指 導	の向上	よる職員の 教科指導力 及び進路指 導力の向上	・各種研修会参加の促進 および情報還元 ・高大接続改革に関する 情報共有 ・大学入学共通テストの プレテストに関する分 析 ・ポートフォリオ作成の 体制整備	B	義を感じられない 職員もいるようだ。 有用なデータにな るよう、今後分析し ていきたい。 ・各種研修会への参 加呼びかけは積極 的に行うことがで きた。 ・学習力向上委員 会の主導により本 校のポートフォリ オシステムを確立 することができた。	
	進路志望実現 に向けた、生 徒自身の主体 性向上	進路志望の 実現に向け、生徒が 自ら選択し、調べ、 活動する環 境の整備	・進路指導計画（3年間） の検証と改善 ・模擬授業、オープンキ ャンパス等の体験型授 業の主体的参加の促 進 ・進路資料室の整備と利 用促進 ・進路ノート、受験の手 引きの活用促進。 ・キャリアガイダンス（出 張講義） の実施（年間15回以 上、平均参加者30人） ・ポートフォリオ作成の ための指導時間の確保	A	・キャリアガイダ ンスについては今年 度1年生を中心に 参加者が多く、受講 者数が90人を超 える回も多くあつた。 ・オープンキャン パス案内も、係職員や 進路委員を中心に 積極的に案内が行 われ、周知がなされ た。 ・上記2つとも単発 の企画である。今後 は学んだことを生 徒自身で掘り下げ ていくよう、呼びか けをしていきたい。	
生 徒 指 導	生活指導の 継続と 徹底	基本的な生活習 慣の確立	・自己管理 力の向上 による整容 の徹底、 及び時間の 厳守 ・自ら立ち 止まり正 対して発声 挨拶をする 態度を養う	・礼節（挨拶）、整容、 遅刻指導の実施 ・生徒会による月2回の 挨拶運動の実施 ・時間の厳守（始業、集 会等の5分前集合の徹 底） ・登校指導による挨拶運 動の実施	A	・朝の登校や始業時 間などに関しては 概ね時間を守る意 識が定着してきた のではないと思 う。 ・外部の方から挨拶 やマナーに関して 評価を頂くことも 多くなってきた。
			・携帯電話 の使用に 関するマナ ーの育成 （SNS等に 関するマ ナー）	・インターネットマナ ーに関する研修会の実施	B	・携帯電話に関す る校内規則の違反や インターネットマ ナーに関して指導 が十分行き届いて いるとはいえ、 SNS等に関して、個 人情報の流失など 今後課題を残し た。生徒、教師が研 修を深めきちんと した知識を基盤と した指導を行う。
	安全教育	交通安全教育 と交通マナ ーの定着	・自転車乗 車上の守 則による 事故防止	・自転車通学生集会の実 施 ・「交通安全の日」の活 動を含む交通安全教育 の充実（月1回）	B	・軽微な違反や事故 はあったが大きな 事故に至ることな かった。交通ル ールを守ることに 関して意識が高ま っている。交通安 全については生命 に関わることな ので今後も継続 的に指導を 続けていく。

	<p>自主自律の精神</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の高揚とリーダーの育成 	<p>・一高祭体育部門、文化部門の充実</p>	<p>・生徒会中心の学校行事等の運営の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダー研修会の実施 	A	<p>・学校行事において、生徒中心の企画が定着してきた。外部の方から大きな評価を受けたことは生徒達の自信に繋がっていると思う。さらに充実した運営がなされるよう指導にあたっていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーの育成に関して研修会や部活動などで継続的に指導を行ってきた。行事やイベント等で自ら率先してリーダーを務めるなど、育成に関して着実に実を結んでいる。 	
人権教育の推進	<p>教育生活の推進</p> <p>職員、生徒の人権意識の高揚</p>	<p>人権教育推進の年間指導プログラムの実践</p>	<p>・人権教育講演会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒相談部と合同の職員研修（年3回） ・各学年人権LHRを実施（年3回） 	A	<p>・教育相談部・保健部との合同講演会を実施し、それぞれの役割分担がなされ負担が軽減された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デートDVに関する講演会で、職員にも生徒にも好評であった。 ・各学年でのLHRは、生徒により効果的に行えるよう、日程の調節を行った。今後生徒の現状にあった教材・授業開発を行う必要がある。 	
	<p>「命を大切にする心」の推進</p>	<p>他の「命」を尊重し、慈しむ態度を育むための取り組み</p>	<p>教科指導や学年（学級）指導等、全ての場面で「命を大切にする心」を根拠にした教育の実践と講演会やワークショップによるストレス対処プログラムの実施</p>	<p>・「命を大切にする心」を育む指導プログラムの周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業、HR活動及び特別活動（部活動等）で、生徒が主体的に活動する内容を盛り込んだ取組の実施 ・校内研修や講演会の実施と職員の意識向上 ・ワークショップによるストレス対処プログラム ・生徒人権委員会実施（月1回） 	B	<p>・命を大切にする取組を、いじめを許さない宣言や人権教育LHRで行っているが、生徒自身の人権感覚の育成に課題が残る。今後も生徒の活動の中で生徒の人権意識の高揚を図りたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒人権委員会は、ほぼ毎月委員会を開き、活動の確認を行っている。人権教育だより「ハートフルメモリー」を各学期に作成した。今後も継続したい。
いじめの防止	<p>健全な人間関係の構築</p>	<p>いじめ根絶に向けた取組</p>	<p>いじめ防止の年間指導プログラムの実践。アンケート結果への組織的対応</p>	A	<p>・「いじめ防止の日」（月1回）と「いじめを許さない宣言文」の宣誓（→いじめゼロを目指す）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年の生徒人権委員会主導でいじめ防止についてのLHRを実施 ・いじめについてのアンケート（4回）結果を受けての迅速かつ、管理 	<p>・いじめを許さない宣言は、生徒人権委員会により毎月行うことができている。1月期での人権LHRでは、いじめに関して、人権委員が中心に運営し、内容についても、生徒たちがまとめることができた。</p>

				職、学年、生徒指導部、生徒相談部との組織的対応		・いじめアンケートは現在まで3回実施し、把握したいじめについては、学年の協力によりほぼ解決の方向に向かっている。
特別支援教育	気づきと基対 理解づいた 応	特別な教育的な 支援が必要な 生徒の実態把 握と具体的支 援策の検討・ 実施	支援を必要と する生徒への 対応が、安心 して学校生活 を送れる環境 づくり	・組織的な支援体制の構築（特別な支援や配慮を必要とする生徒への対応） ・学年会、教育相談部会、校内委員会を通しての情報収集・共有 ・生徒理解研修による全職員の共通理解 ・SCや支援員との連携	A	部会や学年会を通して情報交換を行い、各部・担任・SCと連携して対応することができた。また、研修会に参加するなど、特別支援に関する職員の意識も向上してきている。課題として、別室登校の生徒への対応があり、教室復帰の支援を工夫したい。
地域連携	地域と連 携した防 災コミュニ ティス クールの 実動化	地域の中小学 校や自治会 連携した防 災マニュアル の有効的活用	様々な自然 災害に 対応できる 防災マニ ュアルを 生徒理解 し、いつ でも 対応できる 体制を作る	・年間5回の学校運営協議会の開催 ・防災訓練の実施 ・本校独自の防災マニュアルを有効活用する	A	・学校運営協議会は定期的に開催できた。その中で、地域と共に防災訓練を実施する計画を立てることができた。 ・防災マニュアルは随時更新しながら活用していく。

<p>4 学校関係者評価</p> <p>学校関係者評価委員の皆さんから、学校評価アンケート結果や学校評価の自己評価を踏まえた意見や提言をいただいた。本校の教育活動全般については高い評価をいただいております。本校への期待の大きさが伝わる内容であった。主な意見や提言等に関しては以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果から生徒や保護者の意識の高さがよくわかる。ルールやマナーも非常によく守られており先生方の行き届いた指導を感じます。また、充実した高校生活を送っていることがよく分かります。 ・男女共学が進むなかで、女子高としての伝統が失われていくことは仕方ありませんが、「凜として生きる」これは男女同じこと。ここを柱として更に育てていただきたい。 ・読書の取り組みに工夫が必要と感じる。 ・予習・復習が改善され評価できる。 ・生徒、保護者、教職員とも評価はおおむね高く学校生活の満足度はかなり高いと思われます。課題がある部分も進学校としていたしかたないところもあるようですので、学校の取組が今後少しずつ浸透していくことを期待しています。
<p>5 総合評価</p> <p>学校評価アンケートの結果から、どの項目に対しても概ね良好で生徒の満足度は大変高くなっている。保護者の意識も高く学校への大きな期待を感じ取ることができる。また、外部からの評価も年々高くなっており第一高校のあるべき姿に近づきつつある。男女共学も7年目を迎え安定してきている。更に高みを目指すためにいくつかの課題が見つかった。</p> <p>第一に生徒の自己肯定感をいかに高めていくかである。真面目でおとなしい生徒が多い中でリーダーシップを発揮し周りの生徒を引っ張っていけるような力を身に付けさせたい。生徒中心で行事を企画運営できるような仕組みを作り、教職員は後で支えるような形が望ましいと考えている。</p> <p>第二に自分の将来を真剣に考え自らの力で未来を切り拓いていけるような生徒の育成である。限りない可能性を秘めた生徒たちが十分な力を発揮できるようなステージを用意することである。そのためには基本となる授業の充実が一番に上げられる。深く考え自らの意見を述べるような授業形態を作ることと、教師の授業力の向上を進めていくことが課題である。</p> <p>学習指導要領の改訂、大学入試共通テストも間近に迫っている。本校では一昨年度より、放課後の時間を利用したモジュール学習に取り組んでいる。徐々にではあるが考える力が付きつつあるのではないかと考えている。次年度に向けて学年間の意識統一を図り、更なる深化をさせていきたい。</p> <p>働き方改革が叫ばれ、教職員の負担感軽減を本校においても取り組んでいるが、大きな成果は上がっていない。本校でも今まで様々な取組を考え実行してきた。どちらかと言えば新しいことをどんどん取り入れ飽和状態である。ビルドが先行しスクラップ作業が遅れている。次年度の行事予定を見直し、やめるものはやめ、見直すべきは見直すという考えで進めていきたいと考えている。</p>

6 次年度への課題・改善方策

- ・生徒自らが考え実行する場面をできるだけ多くつくる。教師は陰から生徒を支えるような取組を考えていく。
- ・負担感軽減の取組については継続的に取り組む。学校行事や日程等についてもスクラップできるものは思い切って実行するなど行事の精選を行う。
- ・モジュール学習の教員研修を充実し、更に実のあるものへと深化させていく。
- ・授業が第一であるという認識を深め、授業力の向上に努める。
- ・公開授業の広報に努め、特に中学生にできるだけ多く参加してもらおう仕組みを考える。